

12月にGoogleフォームによる児童対象のアンケート、及び保護者アンケートを行いました。結果をもとに、さらに良い学校をめざし改善を進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

1 児童対象のアンケート結果について

○ 12月に児童対象の「子どもの意識実態調査」を実施しました。今年度も市全体の意識実態調査が、全児童に行われるため、意識実態調査に本校独自の質問を加えて実施しました。今年度は、4月から通常通りの生活を送ることができています。こうしたことが結果にもつながっていると考えます。

① 「2.学校は楽しいですか」のA評価は63%と昨年度と比べると8%上がりました。また、肯定的評価においても91%と2ポイントですが上がりました。各学級で、日々の授業を大切に、温かい人間関係づくりを心がけてきました。また、今年度はスポーツフェスティバルの全学年での開催、マスコットキャラクターの決定等学校全体での活動にも取り組んできました。その成果が表れているのではないかと考えられます。「未来を拓く子ども」の大切な指標となるこの数値を来年度も高められるように、今年度同様全学年に導入されているQ-U、ピアサポート活動を支援に生かしていきたいと考えています。今後も、子どもたちにとって、通いたくなる、魅力のある楽しい学校づくりに努めていきます。

② 確かな学力の育成では「3.授業はよく分かりますか」の問いに対して、昨年度に比べ、肯定的評価の割合が80%と3ポイント上がり、A評価の児童の割合においても42%と6ポイント上がっています。A評価、肯定的評価がともに上がっていることに関しては継続して研修に努め、授業力の向上を図ってきた成果だと考えます。今年度は「対話力」に力を入れて話し合う活動に積極的に取り組むとともに、教職員の力量向上をめざした研修を行ってきました。実際に、外部講師による「学級経営」や「授業法」などの研修を実施しました。また、授業展開の工夫を学ぶための学年での「同単元・同時間」の研究授業の実施などを行ってきました。来年度においてもより一層、子どもたちの学力向上に向け、さらに授業力の向上、指導の工夫に力を入れて研修していきます。

③ 豊かな心の育成では、「6.自分には良いところがありますか」の問いに対しては、A評価で4ポイント上がり、肯定的評価で1ポイント上がりました。肯定的評価ではあまり変化はありませんが、A評価が上がっていることから、児童の自己肯定感を高め、ほめ言葉のシャワーといった自分の良さを認められるような活動を取り入れてきたことが、数値の向上に表れていると考えます。「5.やりたいことや目標をもっていますか」の問いに対しては、「もっている」と答えた児童は79%であり、昨年度の「自分の夢や目標をもっていますか」の値よりも7ポイント下がっています。これは質問内容が変わったことかもしれませんが、夢をもっている、今やりたいことをもっていない児童の割合の方が高いと考えられます。今年度も、キャリア教育授業を12月に行いました。また、2月に2、5年生には「いのちの授業」を行います。こうした取り組みを継続していくとともにいろいろなことにチャレンジしていこうとする気持ちを高める活動を取り入れていくことが必要であると感じます。「7.人が困っている時は助けていますか」の問いに対しては、肯定的評価は高い数値を保っています。半数以上の児童がA評価としていることでも、思いやりの気持ちをもって生活している児童が多いことが分かります。お互いを認め合う活動を積極的に取り入れ、助け合おうとする実践力をさらに高めていきたいと思っております。

④ 信頼される学校づくりとして、「11.自分の学校に自慢できることがありますか」の問いに対しては、A評価で6ポイント、肯定的評価で4ポイント昨年度より上がっています。児童が、この学校のここが自慢と言えるものを増やしていくことが大切だと考えます。魅力的な学校づくりをしていくためにも来年度も引き続き努力し、今後、さらに児童が自分たちの学校に誇り

をもてるように支援していきます。

「16.困ったことがあるときに、だれに相談しますか」の問いに対しては、先生を選択した割合が52%となっています。また、11%の児童が相談しないと答えています。今年度も人間関係力の向上をめざし、ピアサポートの授業を全学年で実施し、互いに認め合う学級・仲間づくりを心がけてきました。また、行うなど道徳の授業の充実に努めました。今後もこうした活動を地道に続け、子どもたちの温かい人間関係づくり、安心して相談しやすい雰囲気づくりに努めていきます。

- ⑤ 「27.きまりを守って生活していますか」の問いに対しては、肯定的評価において高い割合を維持しています。「31.進んであいさつができていますか」の問いに対しては、少し割合が上がっています。今後も、あいさつや廊下・階段の歩行など意識化させ、全職員が同一歩調で根気強く指導していきます。

- ⑥ 家庭生活については、「14.学校の授業のほかに、1日にどのくらいの時間勉強しますか」の問いに対しては、しないと答えた児童が約7%いるため、家庭学習に対する積極性を高めるための取り組みを考えていく必要があります。

「19.携帯電話やスマートフォン、タブレットをもっていますか」の問いに対しては85%の児童が家族共用を含めて持っていると答えています。「21.平日に使用している時間は、一日あたりおよそどれくらいですか」「22.休日に使用している時間は、一日あたりおよそどれくらいですか」の問いによると、平日には、約55%の児童が2時間以上使用し、休日には約53%の児童が3時間以上使用しています。スマートフォン、タブレットが生活の一部になっていることが分かります。また、「32.午後9時を過ぎてもゲーム機や携帯電話をよく使いますか」の問いに対しては、思う・どちらかといえば思うの割合が50%を超えています。これらの結果は、スマートフォン・タブレット・ゲームなどの使用が日常的であり、携帯電話やゲーム機の使用が夜遅い時間になっていることを示しています。今年度は、高学年を対象に学校保健委員会にてメディアとの付き合い方についての講演を行いました。このような活動を通して意識を高めていきたいと思えます。

それに関連して「15.一日にどのくらい、すいみんをとりますか」の問いに対しては、7時間以上は約70%となっており、およそ3割の児童が十分に睡眠をとれていないと考えられます。また、「10.学校に行く日は、朝食を食べていますか」では、A評価が81%となっており約2割の児童が毎日朝食を食べることはできていない状態になっています。こういった結果を踏まえて、今後も情報モラル教育、規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）についての指導にも力を入れていきます。

- ⑦ 「17.自分の住んでいる町が、好きですか」では、肯定的意見が高い割合を示しています。「33.地域や子ども会の行事に進んで参加していますか」では、A評価、肯定的評価がともに下がっていることから、今年度は行事も行われていましたが、参加の仕方が変化していることが原因と考えられます。

2 保護者対象の学校診断アンケート結果について

○ 12月1日～12日に保護者対象の学校診断アンケートを実施しました。今年度も13項目で実施しました。今年度もGoogleフォームによるアンケートを実施し、回答を送信していただきました。結果の概要については校区世帯に配布している学校通信「かけ橋」3月号でお知らせします。

- ① 今年度は4月から全ての学校行事を変更することなく行うことができました。そうした中で質問項目2・5・6・7・8・では、A評価（A：そう思う）の割合は上がっています。昨年度よりもA評価や肯定的評価で割合が下がっている項目もありますが全体的には評価が高くなっています。満足度の高い保護者が増えていることから、今後は、さらに学校の教育活動への期待が高くなっていくと考えられます。そこで、行事等の学校生活については学校からの便りやWebサイトで情報を発信していくことで学校生活への理解を深めていただき、全体的な満足度を高め

ていきたいと考えています。また、質問項目9「お子さんは楽しく元気に学校に通っていますか」ではA評価が3ポイント下がっていることから、さらに子どもたちにとって学校生活が楽しくなるような取り組みが必要であると考えます。

- ② そんな中で、質問項目1～7、及び9の学校としての取組や教職員の子どもたちへの接し方などに関わる部分が、本年度も全体に、「A：そう思う」「B：だいたいそう思う」の肯定的評価が高い数値である約90%を維持することができました。昨年度と比べ割合の増加はありませんが、約90%という数字は、学校への信頼、今後の期待の証でありとてもうれしいことです。
- ③ 教師と子どもとの関係を表す質問項目5「教師は子どもの教育に熱心に取り組んでいますか」、質問項目6「教師は子どもを理解していますか」ではA評価で割合が上がり、肯定的評価でも割合が上がるか、横ばいになっています。質問項目7「お子さんは授業がわかりやすいと言っていますか」においても、A評価、肯定的評価ともに割合が上がっています。A評価は9ポイントも上がり、今年度も昨年度の反省を踏まえ、教師は、講師をよんでの研修や研究授業を行い、研鑽を積みながら、授業改善を行ってきました。その成果が出ていると考えます。今後も保護者の方からの評価でA評価・B評価の割合が安定してさらに高い値になるよう、より一層、子どもたちの学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びの視点に立った指導の工夫を今後も研修していきます。
- ④ 質問項目8「家庭学習の習慣が身についていますか」のA評価の割合は昨年度より3ポイント上がりましたが、肯定的評価は1ポイント上がり72%でした。今年度も、高い評価とは言えない結果でした。家庭学習への積極的に取り組めるよう自主学習の勧め、やり方の説明なども行い、課題の出し方を工夫してきましたが、再度各学年の家庭学習のあり方を見直していきます。今後も、各学年より毎月発行の学年だより「学習コーナー」でのアドバイスやホームページなどを通して、家庭との連携を密にしていきます。また、ご家庭での協力をよろしくお願いいたします。
- ⑤ 質問項目10～12の結果から、携帯型ゲーム機や携帯電話を使用している児童は多いけれども、各家庭において高い割合で使い方を把握し、ルールを決めていることが分かります。学校でも情報モラル教育に積極的に取り組んでいます。これからも家庭と協力しながら子どもたちがルールを守って適切な使い方ができるように取り組んでいきます。